

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401325		
法人名	有限会社 藤サービス		
事業所名	グループホーム長尾		
所在地	大阪府枚方市長尾元町1丁目33-12		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成 13年 7月「グループホーム長尾」として指定を受け、続いて、平成 18年 7月には「グループホームサービス」の指定を受ける。又、空き部屋を利用した短期利用の申請により、グループホーム長尾の理している「通えて、泊まれて、住めるんです」の介護サービスを目指しています。家庭的な雰囲気により良い介護サービスの提供に、職員全員で力を合わせています。利用者の高齢化に伴い、医や主治医の指導のもと、平均年齢 93.4 歳という高齢の方々の健康面にも配慮し、「①笑いあしく③のんびり〜と」をモットーに、日々の生活を送って頂けるよう努力しています。定期的な往け、又、終末迄の対応にも相談に応じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

枚方市で6番目に開設、17年経過のグループホームである。事業所の理念として「明るく穏やかな共に送りましょう」と、アットホームな雰囲気の中で利用者は日々ゆったりと過ごしている。家族的自分のできる事、人にしてあげられることを大切に、地域との関係・交流を大切に、医療連携体制健康管理も充実して、どの人も温かな表情である。ここに集う人は皆、家族の様子である。ハード狭であるが入居者の平均年齢(93.4歳)の高齢化に対応するためには、かえって動線上の安全あり、その中での細やかな創意工夫がみられる。管理者はじめ職員の介護姿勢として「自分なら、は家族であればどうしてほしいか？」を自問自答しながら、利用者それぞれの人格尊重を念頭にケアの在り方を思考しながら日夜努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を大切に、その思いを職員会議に取り入れたり、リビングに掲示し、利用者や、スタッフにもよくわかるように、又、コミュニケーションツールにも使っている。	当事業所の理念は「明るく穏やかな生活を共に過ごしましょう」と定め、どの人の目にもつきやすいリビングに掲示されている。全職員に浸透し日々の介護実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出支援時の買い物時や、ご近所との挨拶や交流なども、大切にしている。近所の方から、散歩時に“庭を自由に休憩場所として使ってください”“年一回のミカン狩りとお庭拝見”“ミニ写真展”等、状況によりお付き合いをして頂いている。	事業所近隣周辺の地域住民とは、日常的な交流も深く、暖かく迎えられている。中でも懇意な地域の人(家主)、地元の人等とは挨拶を交わしたり、散歩時の休憩場所としての利用や、庭のミカン狩りを好意で提供されるなど、友好的なつながりを持ちながら地域の一員として過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催のバザーを通して、お客様対応(準備・店員)の交流にも地域の人々・ご家族の皆様で力を合わせ“お役立ち”をして頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の計画で行っている。参加者の方々より、色々なご意見も頂き、職員やご家族にも公開している。	年6回の会議は定期的開催している。前外部評価調査時の課題であった参加メンバーの増員問題についても努力され、新たに民生委員が参加している。参加メンバー間でも活発に情報交換が行われ、充実した時間となっている。	時折、メンバーに知見者として消防署職員、警察関係者などの参加を求め、近年の自然災害及び犯罪への対応などの観点から、話しをしてもらうことも大切なことと考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	枚方市のホームページより、情報を得たり、提出書類時に、ホームの情報を伝えたりしている。	枚方市の指導監査課、高齢福祉課、障害福祉課、生活保護課の担当者とは密に連絡を取り合っている。枚方市のグループホーム協議会、認知サポート研修会などにも積極的に出向き情報交換するなど双方向的に協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、管理者を中心に全体で取り組んでいる。又、30年4月よりその取り組みを、介護保険法に沿って取り組んでいる。	法改正にも即、遵守の体制で職員研修やアンケート調査をし、身体拘束ゼロに努めている。マニュアルの見直し、日常会話時のスピーチロックにも細心の注意を払い心身の虐待・身体拘束防止を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	適度なGhの広さの為、利用者の方々や職員の動向等、日常的に見える状態である。夜勤者については聞き取り調査等も随時行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を含む権利擁護については、2年1回程度の研修は行っている。現在のところ1件、成年後見制度をかつようしている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介、見学を含む対象者の方には、まずホームを見学して頂き、生活の様子も見て頂いている。又、管理者・ケアマネとのミーティングの中で不安や疑問も等充分にお聞きし、ご理解・ご納得を得るよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営資料はリビングで公開している。利用者・ご家族の方々には、随時ご要望ご質問等、面会時に聞き取りを行っている。直近では、緊急時の連絡体制など、ご意見を頂き改善をしている。	家族の面会時、運営推進会議時に家族とは、フリートーキングで情報交換をしながら改善のヒントを得るようにしている。家族の声として、何でも話しやすいとコミュニケーションは良好である。例えば、直近の自然災害時の家族への連絡方法として、スマホのラインを利用する等協議事項が有効に活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議・職員会議・テーブルミーティングに代表者(管理者)はほとんど参加している。職員の提案・疑問・希望など、直接意見が聴く事が出来るので、内容によっては役員にも相談することがある。	各種会議、テーブルミーティングを活用し事業所の代表・管理者と職員は円滑なコミュニケーションがとられ、信頼関係は厚い。3か月研修、1年研修時にも職員の意見を引き出し、要望を運営に繋げることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は全体的に見渡せる為、どのような気持ちで勤務をしているか、又、労働時間やサービス残業等ないかを把握しながら、改善出来る様努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てている。実行出来ない時もあるが、必要と思われる研修はテーブルミーティングからホーム内・外研修等、状況に応じて前向きに対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	枚方市のグループホーム協議会の方で主催する会議やケアマネ一般職員等の研修交流会等又、施設訪問等にも取り組んでいきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に、入所初期は、出来る限りご本人の気持ちに寄り添い、希望や不安を感じ取りながら、少しずつホームの生活に慣れて頂くよう、最善の努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学をスタートに、入居者の皆様の生活ぶりを見て頂いたり、スタッフの生活支援の関わり方等を見て頂くことで、安心をして頂いている。又、管理者やケアマネとの意見交換を続けるなど関係作りに最善の努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期のご本人の生活ぶりや希望を受け止め、又、ご家族との意見交換や希望・要望なども見極めながら生活支援に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯・掃除・入浴の“出来る事”“出来ない事”を見きわけながら、一方的な支援にならぬよう、ご自身の出来ることを大切にしながら、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の生活状況等、連絡を密に取っています。又、ご家族と共にご本人の生活支援を行う事で、良き関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人・親戚等、来訪された方はもちろん、写真等に写っている方のお話などにも触れ、お聞きしたり、又、思い起こしの手助けになるよう話題にしている。	開設(平成13年)当初に比べ、利用者も加齢が進み、身体状況からも馴染みの人や場所、行動は縮小傾向にあるが、家族訪問時に外食を楽しんだり、家族と墓参りをする人もいる。中には恩師(97歳)を慕い毎年お正月に元教え子・50、60歳代の訪問者を受けている人もいる。このような関係性が継続するよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・タイム等の時間を利用し、チームに別れて絆を図ったり、他の利用者様同士との談笑等、利用者様同士の関係性を大切に、支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、現在も“みかん狩り”“写真展”“散歩休憩時のお庭拝借”など地域密着を活かしながら、関係を断ち切らない取組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、ご本人の意向を聞き取り、ご家族とも連携を取りながら、思いや、意向の把握に努めている。又、困難な場合にも、ご本人・ご家族より、元気な頃のご様子等も聞き取り、意向に添える様に支援している。	事業所入居時のアセスメントシート(生活歴・趣味などを記録している)を参考にしたり、利用者の言動観察から当人の希望や意向の把握を行っている。意向の把握が困難な時には家族の判断を聞くなど、利用者自身にとって本人本位となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ADLの低下を防ぐ為 ご利用者様ご自身出来る残存能力を活かす声掛け等を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の持っている有する能力“出来る事、出来ない事”や、心身の状態の観察や、日々異なる状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で、介護計画に基づいたサービスが行われているか(モニタリング)? 改めての課題は生じてないか等を検討し、介護計画書に反映している。出来上がった計画書は家族様に説明し疑問・希望など、傾聴・改善しながら、同意を得ている。	毎月1回開催の職員会議時にモニタリングをしている。介護計画作成者が核となり、主治医や家族の希望をまとめ、担当職員が経過観察事項に沿い、協議している。参加者間で協議、介護計画を作成し、関係者・本人及び家族に説明をして同意を得ている。身体状況の変化時には即現状に応じた介護計画が作成され職員は共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録される介護日誌、個人記録を共有する事で身体的、精神的状況を把握し必要に応じて介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の行動や言動を観察し、その人に合ったサービスの提供に心がけている。見学時を含め、ご家族とご本人、管理者・ケアマネでの意見交換で《デイ》《短期利用》《入所》等の多機能を活かした諸説明を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で行われているお祭りやホーム主催のバザーを開催し、地域の子供達、住民の方達と交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様に入所前の主治医をお聞きし、又、ホームドクターの説明も行い、ご家族の希望に沿った医療が受けられるような支援を行っている。	かかりつけ医は、利用者及び家族の希望を尊重しているが、入居後しばらくすると大部分の人が事業所のホームドクターに依頼している。医療連携からは月に3回内科医の往診とよつ葉クリニックの看護師が月4回訪問し健康チェックをしている。他科受診は主治医と相談の上、専門医を受診、適切な医療支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約医院は24時間オンコールで、医療連携の申請も行っている。利用者様の健康状態や変化、異変など、情報を速やかに看護師と連携を取り、必要に応じた看護・医療が受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、家族様、利用者様が安心して治療が受けれる様、主治医の紹介状など、入院先との連携や情報交換を行っている。又、看護師にはケアプランを提出し、認知症が進行しないよう早期の退院を視野に入れて貰っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや重度化した場合の、ホームとして“出来る事”、“出来ない事”“医療面”“生活支援”等についての話し合いを、主治医交えての三者面談も行っている。又、スタッフに理解を求める為の研修にも取り組んでいる。	入居時に本人及び家族に資料(重症化や終末期に向けた方針記録)を基に説明し希望・意向を聴収している。事業所として希望される時は最後までお世話するを方針とし職員研修も行っている。直近では5月に職員は看取りを体験している。経過中には必要に応じて三者面談を行い家族と共に終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で勉強会を行い(意識消失、感染症、転倒等)の対応を勉強し意識を持って勤務に就いて貰っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震などは、定期的に訓練を行っている。(消火の方法・避難の仕方など)又、利用者様の安全の確保、家族への連絡を第一に、区長はじめご、地域や近所の方々の協力体制もとれており、又、菅原校区防災マップも準備している。	法規定の防火訓練は昼間・夜間想定で年2回実施している。区長(自治会)はじめ近隣住民への協力要請もでき、備蓄も3日分の用意がある。ただし避難場所が近隣の小学校になっていて、急斜面の歩道のため、別途で安全経路を考えている。ハザードマップを基に火災以外の災害訓練に関して考案中である。	事業所としてハード面はクリアしている。ソフト面として運営推進会議を活用し、訓練時には参加協力を得た実施をしたり、一人夜勤想定訓練を実施・反省会を持ち、課題をクリアするなどミニ訓練を重ねることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重することで、その方の思いや考え(プライド・羞恥心等々)を否定しないように声掛けに気を付けて支援している。	利用者一人一人の人格尊重とプライバシー保護は、全職員に周知されている。排泄介助や入浴介助時に細心の注意を払うようにしている。TPOを念頭に言葉かけ、声の抑揚にも配慮の様子が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のかかわりの中で、個々それぞれの生活様式やリズムに合わせた支援を行っている。ご本人の希望や思いについてはなるべく支援する方向で、又、迷っている場合は2~3の例をだし決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いや、その人らしさを、利用者様とのかかわりの中で、希望や思いを感じ取りながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみの出来る方は整髪を整えて頂いたり、衣服の汚れ、ボタンの掛け違い等に気づいて頂けるよう様声掛けもする。又、行事や外出時・ご面会時などにも声掛けをし洋服などを選んで頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ作りを職員と一緒にしたりしている。食事は生きるための糧であり、楽しみごとの一つです。利用者とお好みのお話をしたり、時には献立の希望をお聞きしメニュー変更するときもある。配膳のお手伝いをお願いしている。	給食会社の管理栄養士の献立を基に、搬送される食材を事業所の調理師が昼・夕食を手作りで準備し、朝食は早出勤務者が用意している。90歳後半の人が半数を占めている事を考慮し、米飯も普通の硬さと軟飯を用意し、副菜食も個別性を尊重したものが提供されている。要介護度5の人も座位姿勢でゆっくりと和やかにみんなと食事摂取をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えた食事を頂いています。食べる事は毎日の楽しみです。バランスを考え水分量と同じように記録に残しています。また咽やすい人はトロミを付けて少しずつ摂取して頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は大切な生活の一部。入歯をはずししっかり残りの歯のブラッシング、うがいを心掛けています。月二回の歯科医往診時には“口腔ケアいつもきれいにしてくっしゃいますね”とお褒めの言葉を頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考に個々の排泄パターンを知り、自立に向けての声掛け・誘導での排泄支援を行っている。又、パット関係も個々の失禁状態で種類を変えて使用している。	基本的に全利用者はトイレでの排泄を実践している。時には2人介助で行うこともある。排泄パターンを参考にさりげなくトイレ誘導を行っている。夜間のみオムツ使用者が1名いるが日中は全員リハビリパンツとパットを着用している。必ず就寝前・夕方には清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①運動による解消 ②食事による解消 ③水分補給による解消 ④排泄時や入浴時の腹部マッサージなど配慮しながら、予防に取り組んでいる。しかしながら、ご高齢の方が多いため、効果が期待できない方がいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のADLに合わせのんびり入って頂く努力をしている。曜日はある程度決まっているが、個々の生活状況で柔軟に対応している。又、時間についても同様で個々の状況に合わせて、時間帯を変えることもある。	入浴は基本的には週2回月・木曜日になっているが、希望により柔軟に曜日や時間の融通を利かせている。下痢などで汚染時には臨機応変に対応している。本音の出やすい入浴時も、利用者の気持ちを汲み取る大切な機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢化に伴い個々の体調、変化や様子又、夜の睡眠状態等も含め、職員間でしっかり連携引継等を行ったうえで、ご本人の希望・気持ちをお聞きしながら、休息を取って頂いている。尚、就寝・起床時間はご本人に合わせて自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の連携、医療や薬局との連携を重視し報告・連絡・相談の考え方を大切にしている。又、疑問やアドバイスなども頂きながら、症状の変化、服用後の状態の観察なども連携している。尚、軽度な疑問についてはお薬リストなども参考にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割＝郵便物・新聞の取り入れ・食事の準備や片付け・カレンダーへの予定表書き込み等。嗜好品＝正規の献立外に、入居者の方と生協などに行き好きな食事(献立を考えたお弁当の相談をしたり)や好みのおやつ等も一緒に買いに行くこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大変な高齢化とGHではまれと思われる重度化の中で、度々の外出支援は大変難しい。しかし歩行を含めお元気な方も若干いらしゃるので、上記にも書いたように出来るだけ個々対応をする努力をしている。	四季折々に天候と相談しながら車で遠出することもある。桜見物、秋の紅葉狩り、菖蒲観察などを行っているが、普段は事業所周辺の散歩や家主の庭を拝借し、外気に触れるひと時を持つようにしている。家族の協力を得ながら外出や外食、買い物に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方でも、お金を持って買い物に行く支援はとても大切である。現在は一人ご自分で管理している。他の方は、ホームのお金を持って近所のお店に行き、お買物を楽しんで頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	“お正月の年賀はがきのやり取り” “ご本人宛に郵送物やはがきが届いた場合” “プレゼントが届いた場合” 等々、お礼のハガキやお電話等かけて頂いています。又、ご希望により電話使用の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、≪彩光⇒カーテンや照明で調節≫ ≪混乱を招くような音⇒音響音量・職員の一方向的な大声・スリッパの音・開閉時の音≫ ≪他不快と思われるような環境⇒居室を含め整理整頓・快い展示物・快い季節感≫ 等々に気を付け、居心地の良い環境に配慮し心の安定を図る工夫をしている。	施設そのものは手狭な空間ではあるが、よく整理整頓されている。共用空間の採光はよく、不快や混乱を招くような刺激はない。リビングから外に視線を向けるとプランターの植物・お花鑑賞で季節を味わえる。利用者が穏やかな表情で、居心地よく過ごせる工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である、リビング・居室・応接室など、のんびり過ごして頂けるように自由に使ってもらっています。時にはご利用者様同士で居室にご招待し楽しげに会話している。サプライステでコーヒーをお出しすることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所面談時に居室の環境についても意見交換をし、新しく購入は避け、日頃使い慣れているタンスやTV、置物などを、ご本人と一緒に居心地の良い環境作りを工夫して頂く。	家族の協力を得ながら入居前に使用していた馴染みの家具類(タンス・TV/置物など)が搬入されている。クリスチャンの居住者でマリア像、仏教徒には仏壇・位牌が配置されている方もある。居室は掃除・整理・整頓が行き届き、居心地よく過ごせるよう工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事わかることを観察しながら、出来るだけ手の届くところに設置したり、引き出しなどには、大きくはっきりと表示し自分の出来ることを一つでも多く工夫している。		